

# Sankka

讃歌  
秋号

京都九条病院 Communication Book

特集  
脳神経外科 脳卒中センター  
患者さんの生命と  
その後の人生のために。

特集  
より良い病院づくりのために、  
私たちはさまざまに  
取り組みを行っています。

コミュニケーション広場

知ってよかった「お薬豆知識」講座 第7講目

暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座 第5講目

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ 第9弾

私の病院自慢あれこれ 第9回

院内散策

第2回院内コンサート



脳神経外科部長  
榎原毅彦



院長  
山木垂水

vol.9  
2007 Autumn  
秋号

# 患者さんの生命と

# その後の人生のために。

脳卒中センターは

24時間365日体制で動き続けています。

京都九条病院では、

今年より脳卒中センターの運営をはじめています。

脳神経外科部長をリーダーとする脳卒中のエキスパートチームが、急性期治療から機能回復までの

トータルなケアに取り組んでいます。

脳卒中の危険性は今、働き盛りの30代にまで広がっています。

脳卒中とは、脳梗塞や脳内出血、くも膜下出血といった脳血管疾患の総称です。脳梗塞は動脈に血栓ができて血流障害が生じ、脳が壊死してしまう疾患。

脳内出血は細い血管がやぶれて血液が脳内にふき出し、その血液によって脳が圧迫されて損傷を受ける症状をいい、くも膜下出血は動脈内にできた瘤が破裂し、脳の表面を覆うくも膜と脳との間に出血する疾患です。急性の場合、脳梗塞や脳内出血は手足の麻痺やしびれ、言語障害、意識障害などを急激に起こし、くも膜下出血では突然非常に激しい頭痛に襲われ、そのまま

死に至る恐れがあります。

脳卒中は食生活の偏りや運動不足からなる高血圧、動脈硬化、高脂血症などに起因する、いわゆる生活習慣病のひとつです。ガン、心疾患に次ぐ我が国の死因の第3位で、昭和26年から55年にかけては第1位を占めていました。ここ数年、高血圧治療の進歩により脳内出血は減少傾向にありますが、その一方でくも膜下出血や脳梗塞の患者数は増加しています。なかでも動脈硬化や高脂血症の若年化に伴い、脳梗塞の危険性は高齢層から40代、30代にまで広がりに続いているのです。

脳卒中の急性期治療には、迅速かつ的確な診断が不可欠なのです。

ところで、ひとくちに脳卒中の治療といっても脳梗塞か脳内出血、あるいはくも膜下出血なのかによってその方法は当然異なります。同じ脳梗塞でも血栓

ができた動脈の種類や、そのつまり具合によって対処の仕方はさまざまです。しかし、患者さんの生存率の向上や後遺症の軽減のため、いずれも緊急を要する



## Takehiko Sakakibara

京都九条病院  
脳神経外科 脳神経外科部長

榊原 毅彦

とに変わりはありません。どのような状態にあるのかを素早く見極め、的確な治療をスピーディに施せるかどうかは患者さんの尊い生命とその後の人生がかかっているのです。脳内出血やくも膜下出血の場合は、緊急手術が必要となるケースが多々あります。脳梗塞の場合は発症から3時間以内に、2005年に新

しく認可を受けた「tPA」という血栓溶解剤を投与すれば、機能回復の可能性が高められるようになりました。

このような背景を受け、京都九条病院ではより迅速で確かな診断と急性期治療の実現、そして患者さんの早期の機能回復を目指して、今年の一月に脳卒中センターを立ち上げました。脳

### 「これからも、患者さんとそのご家族にベストの治療を提供していきます。」

発症から早や九ヶ月が経過しました。その間には、急性期治療から機能回復へのスムーズな移行にある程度の成果を挙げてきたと思っています。しかし、それはセンターができたからといって得られたものではありません。京都九条病院では以前から、やはり24時間365日即応体制で脳卒中の患者さんをチームで受け入れ、迅速で確かな診断と治療に努めてきました。同時に患者さんとそのご家族に、病状と治療と治療後のことについて、できる限り丁寧にお話ししてきました。

とても残念なことですが、脳卒中は手足の麻痺や言語障害、視野障害などの後遺症が残る可能性の高い疾患です。そのことをお話しすると、皆さんぼう然とされ、なかには治療に難色を示す方もいらっしゃいます。そのようなきには、現在の病状、病状に合わせた治療法、治療後の機能回復スケジュールをきちんと提示し、患者さんにとってどうすることがベストなのかをともに考え、ご理解をいただいたうえで治療を提供してきました。その姿勢はセンターとなりました。これからも変わることはありません。

京都九条病院ではまた、治療法そのものの開発にも進んで取り組んできました。脳外傷の治

神経外科医を中心に、救急医、内科医や循環器科医、脳卒中の急性期治療に関する専門教育を受けた看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどからなるチームが24時間365日即応体制を整えています。



高・低体温維持装置

療や心臓停止後の蘇生に取り入れてきた「積極的脳平温療法」は、当院で独自開発した治療法。脳の温度を平温(35~36℃)に保つことで出血などによる腫れ

や炎症を抑え、脳の機能を保護するといふものです。それまでに低温療法が多く病院で取り入れられていましたが、肺炎などの合併症を引き起こす危険性が高く、その抑制のためにコスト面でも大きな負担を強いられてい

ました。ところが積極的脳平温療法は、脳の治療に効果的であることはもちろん、合併症の心配も少なく、その成果は学会での高い評価を得るに至っています。特殊な薬などを使わないため保険診療も適用され、医療経済的にも優れた治療法と言えます。現在、脳卒中の患者さんにもこの治療法を拡充させ、機能回復の可能性のさらなる向上を図っている最中です。

脳卒中センターという新たな地平で、これまでの積み重ねを糧として、少しずつ、種が実りはじめている。いまはまさに、そのような状態です。種を二つでも多く、もっと大きく実らせるために、これからもチーム丸となって脳卒中治療に取り組んでいきたいと思



治療風景



# より良い病院づくりのために、 私たちはさまざまな 取り組みを行っています。

患者さんと  
自らへの「決意」を、  
形骸化させないために

京都九条病院では、スタッフ一人ひとりがいかなる状況においても、あらゆる患者さんに対して、心のもった最先端の医療をご提供できるよう努力を積み重ねています。その拠り所となるのが病院の基本理念であり、それに基づき、「京都九条病院の基本方針」と『患者の権利』に関する宣言」という二つの「決意」です。

患者さんと自らへの「決意」を形骸化させないために、当院ではさまざまな取り組みを積極的に  
行っています。最近では「患者の権利と医の倫理」をテーマにした研修会を開きました。医療被害者の救済活動に尽力されている弁護士先生を講師にお迎えし、病院の人間としては少し耳が痛くなるようなお話もいただくことができました。立場の違う人の考えを肌で感じることで、すべてのスタッフが自らの考えや行動を見つめ直す。そして、互いに意見を交換しあうことでより強い「決意」を共有する、またとない機会になったと考えています。

より良い医療の実現のためにスタッフが「丸となる取り組み」としてはまた、「新・新しい病院作りキャンペーン」を実施していま

す。これはトップダウンではなく、職員たち自らが志し、部署の垣根を越えて集まり、意識を統一することではじめたボトムアップの運動です。実施に先立ち5月に決起集会が行われたのですが、その際のフリーディスカッションで、数えきれないほどの前向きな意見が交わされるのを目の当たりにして本当に勇気づけられました。このキャンペーンからは、院内

のIT化と電子カルテの導入を図る「診療情報共有化プロジェクト」、各施設間のより円滑な連携を目指す「チームワークプロジェクト」、職員研修を行う「あなたが主役プロジェクト」、外部へのアピールと広報を強化する「もうと知ってよ同仁会グループプロジェクト」の4プロジェクトが発足し、それぞれ活発な運動を展開しています。



Tarumi Yamaki

京都九条病院 院長 山木 垂水

## 職員研修会「患者の権利と医の倫理」開催

平成19年6月30日(土)、京都九条病院の全職員を対象とした研修会を行いました。医療事件では患者側代理人として活動を続けておられる御池総合法律事務所の長谷川弁護士に講演をお願いし、体外受精や脳死の問題、インフォームドコンセントの定義や医療過誤、医療事故などについて、実際の判例を用いながらお話しいただきました。講演終了後には長谷川弁護士と京都九条病院の職員との間で質疑応答が行われ、一同、より良い医療の実現のための意識を新たにすることができました。



御池総合法律事務所 長谷川彰弁護士



講演終了後の質疑応答風景

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

良質な医療を安定的に提供すること。  
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す  
前向きな姿勢を持ち続けること。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- 1 医療は患者さまとご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- 2 「奉仕の精神」を持ち、親切な対応、サービスの向上を心がけます。
- 3 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- 4 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- 5 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- 6 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人の健康」に貢献します。
- 7 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスケアを進めます。
- 8 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- 1 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 2 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
- 3 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
- 4 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
- 5 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
- 6 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊厳され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊厳し、十分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力をします。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。

一人ひとりの  
さらなる可能性を  
引き出し、大きく育む

去る7月に第2回目を開催し、大変なご好評をいただいている院内コンサートも職員たちの自発的な頑張りには支えられています。裏方を担当してくれているので表立っては見えないものの、地域の方々に音楽の楽しさをもっと知っていただきたい、そして当院のことをもっと身近に感じていただきたいという気持ちで、職員たちの何気ない表情や行動にかいま見ることができました。そんな姿を見ると、私をはじめとする出演者も「頑張ろう」という

気になり、その結果地域の方々にご満足いただけるという、とても良い循環になっています。最後に、これは病院外の話で恐縮ですが、私が当番世話役を務め、6月に京都で開催されたある学会の運営を当院の職員がすべて担当してくれました。通常、学会の運営には専門職を雇うものですが、私はあえて職員にお願いしたのです。その理由は、勉強になるということ。演題が当院の専門である救急医療なので、話を聞くだけでも意義があると考えたのです。そして、アカデミックな環境に触れることも今後の病院運営にきつと役立つと思ったのです。その思惑とおり、みんな参加できて良かった

言ってくれました。また、全国からお越しいただいた研究者の方々より、職員のホスピタリティと運営能力の高さにお誉めの言葉を頂戴しました。これは本当に誇らしいことで、職員に対して感謝の気持ちでいっぱいです。さまざまなお取り組みを行うと、日常の仕事以外のところで、その人のさらなる可能性が見えてくるものです。それを引き出し、育てていくことも病院の役割です。京都九条病院では、一つひとつの類い稀なる力を合わせて、これからはより良い病院づくりに励んでいきたいと思えます。どうぞ、ご期待ください。

「第21回日本神経救急学会 学術集会」開催

平成19年6月16日(土)、京都テルサで、「第21回日本神経救急学会学術集会」が開催されました。本学会は、神経系全般にわたる救急疾患を脳神経外科、神経内科、精神科、小児科など多分野の医師が専門域を越えて議論し、今後の診療に結びつけていくという大変ユニークな学会です。第21回を迎えた今回は、「隣りの芝は青いのか?」というテーマのもと、62演題の白熱した議論が繰り広げられました。本文でもお伝えしているように、この学会は京都九条病院の山木院長が当番世話役を務め、当院の職員が運営に関わるすべての業務を担当しました。



講演風景

**M**EDICINE  
for **H**EALTH

知ってよかった「お薬豆知識」講座

講師：京都九条病院 薬剤部長

友沢 明徳

Akinori Tomozawa

知って得する  
安全でよく効く  
外用薬の使い方。



一般に、のみ薬、注射以外の皮膚や粘膜に使う薬を外用薬といいます。外用薬には様々な用途や形があるだけに、注意すべき点も多種多様です。今回は、安全でよく効く外用薬使用の「コツ」をいくつか紹介します。

まずシップ薬ですが、最近の主流は、痛み止め成分が皮膚を通じて浸透し、筋肉や関節等の炎症を抑えるものです。医療用では1日2回タイプと1日1回タイプがありますが、1日中貼っておく必要はありません。むしろ皮膚呼吸を邪魔したり、かぶれを起こしたりしないよう、2回タイプで1回約3時間、1回タイプで約6時間を目安にしてください。効果はほとんど変わりませんが、広範囲にわたる場合は一回3ヶ所程度にし、塗り薬を併用するほうが良いでしょう。



薄型テープタイプは、はがした跡に直射日光を浴びると皮膚炎を起こす場合があるので、露出する場所に貼る場合は、十分注意してください。

次に塗り薬です。化膿止め、かゆみ止めのように皮膚の表面に作用するものは、こすらずに薄く伸ばして塗りますが、筋肉痛、関節痛等の場合は、擦り込むようにマッサージしながら塗ったり、ローションの場合は乾いてから重ね塗りするのが効果的です。最後は目薬です。目薬を差した後は、まばたきせずにしばらく眼を閉じて薬がよ

くいきわたるようにします。2種類以上使う場合、初めに差した方が洗い流されないので5分以上は間隔を空けましょう。目薬の細菌汚染防止のため、まぶたやまつ毛等に触れないように差すことも大切です。普通、目薬には防腐剤が入っていますが、医療用は濃度が低いので、特に指示がなければ開封後2週間が使用期限です。瓶に書かれている使用期限はあくまで未開封の場合ですので、ご注意ください。

外用薬は使い方ひとつで効果が変わります。薬を、もろ「う」だけでなく、主体的に「使うこと」セルフメディケーションが大事ですね。



**N**URSING  
for **H**EALTH

暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座

京都九条病院 看護部外来 看護師

萩野 知賀子

Chikako Hagino

健康人生のために。  
『私の健康維持法』



健康は、みんなの一番の願いです。ね、健康を維持することは即ちアンチエイジングが大切。筋肉は年齢に関係なく鍛えればその筋肉を維持するために基礎代謝が高まります。その結果、贅肉や脂肪を落とすことができ、健康に繋がるのです。ですが二時的に鍛えるのでは意味がありません。根気良く続けることが大事。ですから毎日の生活に自然に取り入れられるものが一番です。

健康維持方法があります。参考にすればと思いい紹介します。

- 1) 毎日のストレッチ
- 2) 食べ過ぎ、飲み過ぎに注意
- 3) 1回/週ペースでバレーボール
- 4) 2〜3回/月5kmのランニング
- 5) 趣味の時間を過ごす

実はこれだけなんです。

大切なことは、やはり『継続すること』。そして、明るく楽しく、セカンドライフを過ごすことだと思っています。

ストレッチにはいろいろな方法があります。短い時間でもしっかりと身体に効くように行ってみてください。とても気持ちがいいですよ。

- (1) 手首のストレッチ  
肘を身体の前方へまっすぐに伸ばし、手のひらを上に向けてたまたま、もう片方の手を添えて、手首を曲げます。
- (2) 肩のストレッチ  
頭の後ろで肘を背中につけ、もう片方で肘を持ち頭の方へ引き寄せます。
- (3) 肩のストレッチ  
肩の前で片手の肘を押しさえながら、胸に押しつけます。
- (4) 脇のストレッチ  
両手を頭の上で組んで、上体を片方ずつ傾けます。
- (5) 背中ストレッチ  
四つんばいになって、そのまま腰を沈めて、背中を伸ばします。
- (6) 腰のストレッチ  
足を組んで座り、片手で上体をひねります。
- (7) 股関節のストレッチ  
あぐらをかくようにして座り、両方の足の裏を合わせます。そのまま股関節を開いていきます。
- (8) 大腿のストレッチ  
立ったまま片方の手で片方の足を持ち、かかとをお尻に近づけます。
- (9) ハムストリングスのストレッチ  
真っ直ぐ立ったまま、腰を曲げていき両手を床に着くようにします。
- (10) アキレス腱のストレッチ  
体重を前足にかけたまま、後ろ足を伸ばします。

ストレッチも筋トレと同じで、伸ばす筋肉に意識を集中すると効果的、筋肉がほぐれることによって、ストレスも解消されます。結構手軽に行えるので、普段の生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。



雨籠沼でのワンシーン。  
大自然を十分に満喫したのは、子供よりも私の方かもしれません!!



夏はトレッキング、  
冬はスキー。  
アウトドアスポーツ三昧が、  
元気なわが家の  
エネルギー源。



FACE  
of DOCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ

京都九条病院 外科  
北川 一智先生  
Kazutomo Kitagawa



**私**のいちばんの息抜きは、家族揃ってのトレッキング。今年の夏休みは石狩平野の北端にある雨籠沼というところに行ってきました。

妻と3人の子どもと愛車の4WDに乗り込み、フェリーでゆっくりのんびりと。北の大地では、みんなでリュックを背負って緑なす湿原をテクテク歩いてきました。アウトドアスポーツなら何でも大好きで、学生時代には自転車で北海道を一周したこともあります。医師になってからはしばらく中断していましたが、いちばん上の子どもが生まれた頃に、家族で楽しめるトレッキングをはじめました。その醍醐味は自分の身体を動かして

大自然に親しむこと。美味しい空気を味わいながらいい汗を流せば、日常のストレスもキレイスッキリと洗われます。

**わ**が家の冬のお楽しみはスキー。毎年冬休みに信州方面に滑りにいきます。うちの子どもたちは恐いもの知らずで、ロクに滑れないのにコブ斜面に挑戦して周囲を凍りつかせたことがありました。そんなチビらも今ではいっばしのスキーヤー取っ取り。でも、まだまだ子どもたちには負けませんよ。親父のメンツをかけてもね。

LOVE  
my HOSPITAL

私の病院自慢あれこれ

京都九条病院のいいところ。  
こんなところがわたしたちの自慢です。

病院のここが好き!!

好きな言葉  
favorite word  
「つながり」  
岡本 芳也  
事務部 医事課



チームワークの良さだと思います。みんなが一つの目標に向けて力をあわせ、誰かが困っているときはみんなでフォローする。元高校球児の私は現在病院の野球チームに所属していますが、院内のチームワークがグラウンドでも遺憾なく発揮されているのを実感しています。普段の私は主に受付を担当。患者さんと病院をつなぐパイプとなる重要な仕事です。まだ未熟な面がありますが、病院の「顔」として誰からも信頼されるよう、毎日を一生懸命頑張っています。

好きな言葉  
favorite word  
「義理人情」  
今田 寿郎  
検査部 放射線科



緊急時や予約外の検査にも素早く対応できる所ですね。9名の放射線検査技師のうち、かならず1人は宿直し、24時間体制でスタンバイしています。MRIやCTスキャン検査を受けられる患者さんの症状は、1秒を争うことがあります。そんな方が回復されて、「ありがとう」とおっしゃってくださったときには技師冥利に尽きますね。これからは患者さんとそのご家族の思いや願いに報いることができるよう、専門技師として、自らの心と技をいっそう磨いていきたいと思います。

好きな言葉  
favorite word  
「明朗活発」  
大澤 千恵子  
看護部 2階病棟



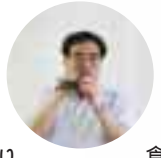
看護師全員が心がけていることは患者さんに負担を与えない看護の提供。症状や性格により患者さんも十人十色、なかにはおしゃべりが苦手な方もいらっしゃいます。そういった患者さんにむやみに話しかけてストレスを感じさせないことも、看護師の役割と考えているのです。そのかわりに活躍するのがスマイル。一日も早く元気になっていただきたい、そんな思いをこめて、明るい微笑みを忘れないようにしています。

好きな言葉  
favorite word  
「さわやか」  
野村 雅高  
リハビリテーション課 主任 理学療法士



スタッフ間のコミュニケーションがとりやすいところがいいと思います。ここではよく同仁会職員のスキルアップのために、研修会が開催されます。法人内施設から多く参加されるため、様々な方々と交流することができ、情報交換が気軽に出来てしまうんです。だから自分が担当していた方が他の施設に移られた時など本来心配なんですが、気軽に経過など話し、引き継げるので安心です。

院内散策 **たんけん** ④ 『第2回院内コンサート』 主催 京都九条病院



梅雨の晴れ間に恵まれた平成19年7月8日の日曜日、京都九条病院が主催する院内コンサートが開かれました。これは昨年の同時期に行われた第1回目に続く第2回目の催しで、会場となった病院内の職員食堂には前回を上まわる数の方々にお越しいただき、用意した席が足りなくなるほどの大入りとなりました。

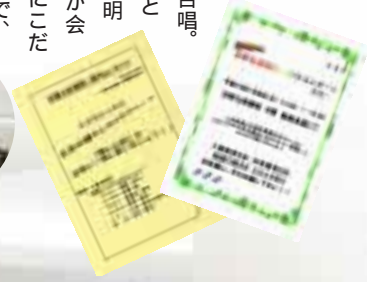


出演はホルン担当の山木院長をはじめ、フルト、オーボエ、クラリネット、ファゴットの5名に編曲担当の1名を加えたグループ、京都シンフォニカの皆さん。クラシックの名曲と日本の懐かしのメロディーが木管五重奏の穏やかなハーモニーにのせられるたび、満員の客席から温かな拍手が寄せられました。演奏の合間には山木院長による楽しいお話があり、なかでも盛り上がりを見せたのが色々な小道具を用いたのバフォーマンス。手のひらにすっぽり収まる小さなラッパや、ゴムホースにじょうごをつないだ自作楽器の演奏はとて楽しく、会場には笑い声が絶えませんでした。院長が旅行の際に、どうしても欲しくなつて買ってしまったという、2メートル以上もの長さがあるアルペンホルンには驚きの声が上がりました。コンサートのラストを飾ったのは



会場の方々との「青い山脈」の合唱。その歌詞の通り「若く明るい歌声」が会場いっぱいこだまするなかで、第2回院内コンサートも大盛況のうちに終了することができました。

前回と同じく、会場整備はもろろんチラシンプログラム等の作成などのすべてを病院内の職員で行った手づくりのコンサート。本業の仕事が忙しいなか、京都シンフォニカの皆さんにもボランティアでご出演いただきました。その甲斐あって早くも第3回目の開催を望む声が多く寄せられています。そういった期待にお応えするために、京都九条病院ではこれからも院内コンサートを定期的に開いていく予定です。音楽を心から愛するみなさんとの再会を、職員一同心待ちにしています。



医療法人同仁会(社団) **京都九条病院** 〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10 TEL 075-691-7121・FAX 075-691-5311 www.kujohp.com/

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院 **訪問看護ステーション・مام** 〒601-8454 京都市南区唐橋経田町16 TEL 075-661-3820・FAX 075-661-3835 www.dojinkai.com/mam\_s/

医療法人同仁会(社団) **同仁会クリニック** 〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30 TEL 075-691-7766・FAX 075-693-6175 www.do-clinic.com/

医療法人同仁会(社団) **介護老人保健施設 マム フローラ** 〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺奥ノ院25-2 TEL 075-958-3388・FAX 075-951-5300 www.dojinkai.com/mam\_f/

京都市唐橋地域包括支援センター **京都市唐橋地域包括支援センター 介護予防支援事業所** 〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10 TEL 075-692-3368・FAX 075-692-3348 www.dojinkai.com/mam\_s/

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設) **同仁会疾病予防研究所** 〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30 TEL 075-691-5070・FAX 075-693-6135 www.do-clinic.com/yobo/

医療法人同仁会(社団) **介護老人保健施設 マム クオーレ** 〒601-8326 京都市南区吉祥院南落合町40-3 TEL 075-691-7755・FAX 075-691-7765 www.dojinkai.com/mam\_c/

医療法人同仁会(社団) **居宅介護支援マムステーション** 〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10 TEL 075-691-7200・FAX 075-691-7116 www.dojinkai.com/mam\_s/

京都九条病院(提携)・同仁会クリニック(併設) **メディカルフィットネスクラブ SHIN-SHIN** 〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30 TEL 0120-558-756・FAX 075-672-1414 www.e-shinshin.com/